

有朝う

— 高橋英雄 詩集 —

第十一号

いちずに

令和3年7月28日

世界平和の祈りこそわがいのち

五井先生の称名こそわが光

肉の身のいのち燃えつき

想いのエネルギー尽きはてるまで

” 世界人類が平和でありますように

五井先生ありがとうございます”

この祈り この称名を

ただひたすらにしつづけます

五井先生から目をはなさない

世界平和の祈り以外のことは思わない”

” 世界人類が平和でありますように

五井先生ありがとうございます”

統一に 一途に

祈りつづけ唱えつづけて参ります。

化身

世界平和を祈る私は

五井先生の化身

五井先生の化身が

「世界人類が平和でありますように」と

祈っている

「私」なんて最初から無い

ここに居ますは五井先生の化身

五井先生の大大光明のみ

令和3年7月29日

聖なる約束事

令和3年7月30日

五井先生と神界との約束事だから

誰も彼もが神人一如となって

救世の大大光明そのものとなって

生きてゆく

祈りのひびきそのものとなって

生きてゆく

約束事なんだ

聖なる約束事で生きてゆく



悲願 ①

令和3年8月4日

祈り人は一個の肉体人間ではない
無数の天の御使いたちの悲願
天地の皆々様の悲願が
私となつて現われています
神々の悲願が結集している私
天地の悲願が結集している私
だから祈りは世界平和の祈り
それだけの為に生まれて来た
今 その天命を成就させつつある

悲願 ②

神々 仏如来 菩薩の悲願が結集して
五井先生になった
五井先生の悲願は世界平和の祈りとなった
私たち一人一人は
五井先生の悲願となつて
今 命をもやし
天地を照らしている
光の柱となつてたっている

師を超える

令和3年8月6日

昔 講師の人が集まった時
「五井先生になれるか なれないか」
ということが話題になった
結論は出ないまま終った
或る人が代表して
五井先生に直接伺った
「なろうと思えばなれる
なれないと思えばなれない」
というお答えだったという

私は「なれる」と思っている
弟子が師を超えなければ
この世に進化向上はない
師をこよなく愛し 慕うが故に
弟子は師をこえられる

五井先生の過去世の一齣に
お釈迦さまの直弟子アナン尊者がある
法然上人の直弟子 親鸞上人がある
五井先生は二十世紀
直霊と一体となり

唱えて来ただけなのに

只単純に世界人類が平和でありますようにと
祈つて来ただけなのに
神々はそんな私を黙って

暖かく見守りつつけていた

尊いご神縁

令和3年8月28日

うどんげの花は三千年に一度だけ咲くと云う。
正師にまみえることは
うどんげの花が開く時に会えるくらい
むずかしい確率なのに
私はやすやすとお会い出来てしまった。
五井先生の素晴らしき凄さは
言葉で云い現わすことが出来ない。
五井先生の慈愛の御手によって
すべて整えられていたということは
感謝の他ない。
いずれの世界に移っても
この尊いご神縁を生かして
世界人類が平和でありますように
五井先生へくと唱え
救世の大明を輝やかす
よき器(うつわ)でありますように。

告白

令和3年8月27日

亡くなってから後悔するよりも
今の今
肉体界にあつて夫婦である間に
妻に云おう
「大好きだよ」
「心から愛しているよ」
一日に一回は云つておこう
愛の言葉を告白するのに
てれていてはいけない
年齢なんか関係ない
妻の頬を両手ではさみ
妻の目をじつと見て
心から云おう
そして抱きしめよう
善はすぐなせ
あなたの言葉に妻もよろこび
あなたもよろこぶ

どんなことをして来ましたか？

令和3年8月22日

あちらの世界に帰えつて神々に
「あなたは地球で何をして来ましたか？」
と問われたら胸をはつて答える

「五井先生提唱の

世界平和の祈りをして来ました」
「どんな祈りですか？」

「世界人類が平和でありますように
日本が平和でありますように
私達の天命が完うされますように
守護霊様 守護神様

五井先生有難うございます」

唱えれば五井先生と神界との約束事で
そこに救世の大明が忽ち輝く
神々の心のひびきそのままに
日々祈つて来たことが改めて
なんと素晴らしいことであつたのか！
深く悟らされ感謝感激するに違いない

私にとつて五井先生の弟子であること
世界平和の祈り人であることが
どれだけ光栄で誇らしいことであるか
感動して涙するに違いない
五井先生有難うございます と



アフガニスタンが平和であれ

令和3年8月23日

世界人類が平和でありますように

アフガニスタンが平和でありますように

アフガニスタンの天命が完うされますように

守護霊さま守護神さま有難うございます

五井先生有難うございます

私には祈ることしか出来ない

しかし平和の祈りを祈って

救世の大光明をアフガニスタン国と

その国民の中に流すことが

何にもかえて大事なことなのだ

アフガニスタンの国津神様が

民衆の守護神たちが

心から欲していることなのだ

アフガニスタンの平和実現には

救世の大光明の調和力と光明力が

絶対必要なのだ

人間の感情想念にもとづいた

いかなる和平工作も いかなる活動も

国を乱し国民を疲弊させるだけしかない

今こそアフガニスタンに救世の大光明という

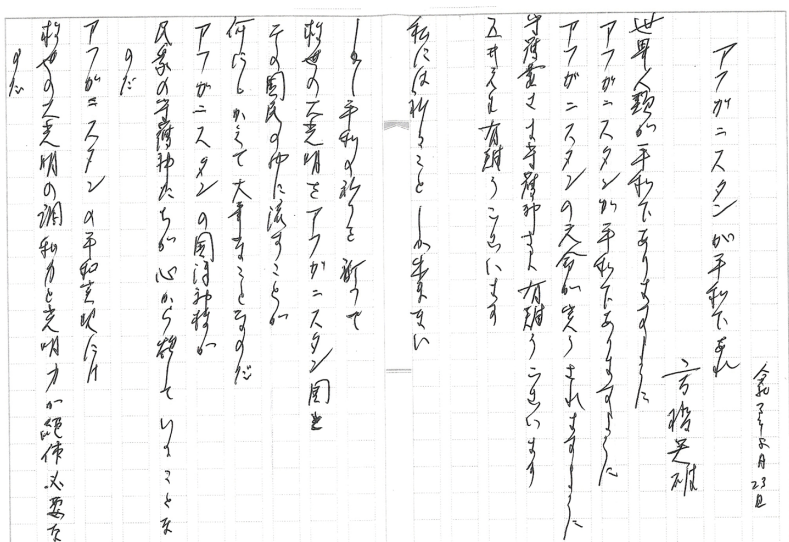
救世主の大慈悲が必要なのだ

祈ろう 祈ろう

アフガニスタンの国と国民のために

祈ろう 祈ろう

アフガニスタンが平和でありますように



第十一号 編集後記



戦火の祖国からスコットランドに避難したアフガニスタンの青年と、20年近く前にアラントン聖地で出会いました。グラスゴーの空港まで迎えに来てくれたリストラランで楽しく食事をしたり、娘を通してその後も交流が続いています。必ず平和な世界になることは確信していますが、「アフガニスタンが平和であれ」の原稿をスキャンしていると胸が詰まりました。

天災も人災も鎮まつて地球世界が平和になるためにも、神さまのみ心の奥深くまで自分からどんどん入っていくことと思います。

令和六年十月吉日 O.K

編集発刊 白光真宏会 大阪支部

住所 〒55010002

大阪市西区江戸堀2-17-32
ネオアージユ土佐堀303号

TEL 06-6444-8620
FAX 06-6444-8620